



下野 卷狩 (絵画)

山田の獅子

委員 渡邊 健児

神社などでよく目にする狛犬こまぬは、中国から仏教を介してもたらされた想像上の霊獣れいじゅう「獅子」が元になっています。また、獅子に扮して舞う獅子舞は、疫病退治・悪魔払いをする縁起ものとして広がり、日本各地で独自の展開を見せています。

獅子頭 3頭 (市指定民俗文化財)

山田地区には、阿蘇神社の神事の際に、神幸行列を賑やかに囃す田楽方でんがくかたが使用した獅子頭が現存しています。田楽方の家系の一つである大田黒家の伝承によると、慶長年間(1596〜1614)に阿蘇神社の大宮司おんみやつりから御田祭みたままつりの田楽職を仰せつかったと伝えられており、古い歴史を今に伝えています。



大田黒家の獅子頭



児玉家の獅子頭



小野家の獅子頭

獅子頭は、手に持って舞う小型のもので、田楽方の獅子舞を司った「獅子の家」である大田黒家・小野家・児玉家の3家に伝わっており、昭和59年12月16日に市の民俗文化財(有形)に指定されています。

この獅子の家では、正月になると阿蘇神社から拝領された獅子頭を用いて数人の舞子まいこを従え、阿蘇神社を始め阿蘇家や家臣の家々へ行き、獅子舞を舞っていました。山田の獅子舞は格式が高く、座敷に上がって舞い、手獅子の頭に噛んでもらうと病気になるまいと伝えられ、大正末期頃まで続いています。

獅子の家では、現在でも、正月になると獅子頭を収納箱から取り出し、スス払いなどして清め、祝詞のりとをあげて座敷で舞われます。舞った後は、獅子頭は糸図と共に箱に納められ、新しいしめ縄なわをかけて神棚で安置します。

ところで、阿蘇谷で獅子舞といえば「阿蘇の虎舞」が一番に思い浮かびます。獅子舞は、阿蘇神社に奉納される神事であり、それ以外のものは獅子頭で舞うけれども、恐れ多いということで「虎舞」と呼ぶようになったと伝えられています(「阿蘇の虎舞」平成19年4月号参照)。